

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4070300324		
法人名	医療法人 医和基会		
事業所名	グループホーム 金刀比羅		
所在地	〒804-0022 福岡県北九州市金比羅町4番29号 TEL 093-871-2760		
自己評価作成日	令和05年08月01日	評価結果確定日	令和05年09月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会		
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴2丁目5番27号 TEL 093-582-0294		
訪問調査日	令和05年09月01日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ●入所者の人格の尊厳 安心して暮らせる(安堵)環境づくり ●医療連携による安心して暮らせる環境づくり 24時間体制の医療連携拡充

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>「金刀比羅」は、散歩コースが整備され、野鳥観察のスポットでもある市民憩いの場所、金比羅池にほど近い、自然に恵まれた環境に2002年2月1日に開設した定員27名のグループホームである。MC S(メディカルケアステーション)の導入により、利用者の詳細な医療情報の共有が実現し迅速な対応に繋がっている。また、常勤看護師を配置し、母体である医療法人戸畑総合病院と隣接する金刀比羅診療所の2ヶ所からの往診と緊急時の対応、介護職員との連携で24時間安心の医療体制が整い、看取りも行っている。コロナ禍の中で、外出や外部との交流を控えてきたが、ホーム内で行う四季折々の行事や誕生会、近隣への散歩等で気分転換を図り、利用者の笑顔に繋がっている。職員アンケートを実施して自分たちの現状や課題を明らかにし、ホーム長と3名の管理者を中心に少しずつ職員も定着し始め、今後の発展が期待される、グループホーム「金刀比羅」である。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、日常的に戸外へ出かけている (参考項目:51)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	●理念は掲げているものの通常の業務においてその向上・徹底を図るような活動は行っていない。ゆえに入居者への思いやりを持って運営しているものの万全であるとは言えない。特に地域交流はコロナ渦以降できていない。	ホーム独自の理念、『ぬくもりを胸に・めぐり逢いはいつも傍にある・その瞬間を心に刻もう』を見やすい場所に掲示している。職員は、理念の意義や目的を理解し、常に理念を意識しながら、温かな気持ちで利用者へ寄り添い、ホームの中で利用者が安心して穏やかに暮らせるよう、支援に取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	●上記にも述べたようにコロナ渦以降地域との交流が行われておらず、途絶えている	コロナ対策以前は、併設事業所と行事に参加して交流したり、利用者と散歩に出かけた時には、その場所で行った人と挨拶を交わす等、コミュニケーションに努めていた。新型コロナウイルス感染症が「5類」に移行されたことを受け、状況を判断しながら、少しずつ外出レクリエーションや地域の行事に参加できるように検討している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	●生かしていないし、認知度も低下		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	●新型コロナ感染症対策の為、書面開催としている。	コロナ対策以前は、運営推進会議に利用者や家族、地域包括支援センター職員、ホーム職員が参加して2ヶ月毎に開催していたが、現在はコロナ対策として資料を基に職員のみで開催している。新型コロナ「5類」移行に伴い、対面式の会議再開に向けた調整を行っている。	外部からの参加が少ないので、コロナ収束後には参加者の増員を図る事と、近隣の事業所と合同での開催や管理者が相互に参加する等、会議の活性化を期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	●北九州市介護保険課とは密接に連絡指導をいただいている。運営指導や相談員派遣提案など支援をいただいている	運営推進会議に地域包括支援センター職員の参加があったが、現在はコロナ禍の為、書面での報告を行っている。管理者は行政担当窓口へ、空き情報や事故等の報告を行い、疑問点や困難事例があればその都度相談し、情報交換しながら連携を図っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	●虐待防止委員会を設置し、研修等を定期的実施するなど職員の意識改革に取り組んで成果を出している	ホーム長をトップにした身体拘束・虐待防止委員会を設置して定期的に職員研修を行っている。今年度から隣接する系列事業所と合同で委員会活動、研修等を行い、禁止となる具体的な行為の周知を図り、職員一人ひとりが理解を深め、身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	●虐待防止委員会を設置し、研修等を定期的実施するなど職員の意識改革に取り組んで成果を出している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	●1名の入所者が権利擁護の利用者であり、その内容については一部の職員のみが周知しています。今後勉強会を開催し支援体制を組み立てます	権利擁護の制度について、職員会議や内部研修会の中で話し合い、資料やパンフレットを用意して、利用者や家族から相談があれば分かり易く説明し、制度を活用出来るよう、支援に取り組んでいる。制度活用の利用者が1名いるので、職員は業務を通じて制度に対する理解を深めている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	●十分に説明しています。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	●利用者及びその家族とはことあるごとに意見交換を行っている。 また、介護相談員の派遣も実施しています	コロナ禍以前は、面会時や運営推進会議、ホーム行事に家族が参加し、意見や要望を聴き取っていたが、面会等の制限がある現在は、小まめに電話で連絡、報告を行う中で家族の意見や要望を聴いている。出された意見は出来るだけホーム運営や利用者の日常介護に反映させている。	ホーム便りを作成して定期的に家族に送付することで利用者の暮らしがりを伝え、家族の安心に繋げることを期待したい。
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	●毎月、管理者会議(管理者・看護師・ケアマネ)とフロアミーティングを行っている。 各職員の意見を吸い上げ管理者会議で協議し反映させている。	月1回、各ユニット毎にミーティングを開催し、管理者は、職員が意見や提案等を出しやすい雰囲気作りを心掛け、職員間で話し合う機会を多く設け、意見や提案等をホーム運営や業務改善に反映させている。 ホーム長、管理者、看護師、ケアマネージャーが参加する管理者会議では、現場の職員から出された意見や要望を共有している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	●労働環境改善にも注力し、利用者へのサービス向上につながるよう心がけている。 やりがいについても指導しているが、研修参加や資格取得にも積極的にチャレンジできる環境づくりに努めている。		
13	9	○人権尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	●人権尊重については十分理解し指導にも生かしている。 風通しのいい職場環境を目指し、意見交換のしやすい職場づくりに傾注している。	職員の募集は年齢や性別の制限はなく、介護に対する考えや人柄を優先して採用している。採用後は、新人研修やスキルアップ研修、資格取得等を奨励し、職員の質の向上に取り組んでいる。職員の休憩時間や休憩室、希望休、有休の確保等、勤務体制に配慮し、職員が生き生きと働ける職場環境を目指している。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	●入所者への人格の尊厳を掲げてはいるものの職員向けの教育や啓発は行っていない	利用者の人権を守る介護サービスについて、新人研修やミーティングの中で内部研修を実施している。利用者の個性や生活習慣に配慮し、言葉遣いや対応に注意して、利用者の尊厳を守る介護サービスの提供に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	●技能や知識の習得には積極的にチャレンジするよう勧めている。 研修参加についても業務に係ることや資格取得に向けたものは研修として就業時間内の参加を認めている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	●系列の社会福祉法人いわき福祉会との連携により勉強会や情報連絡協議会などの見学参加等交流を図っている。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	●ケアマネ、フロア管理者、看護師を含め入所前からの協議を進め慎重に受け入れ態勢をとっている		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	●入所前の見学時点から関係構築に努め、信頼関係を構築している		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	●個別の介護計画に基づき対応している。 必要であれば認知症デイケアの利用等の提案など行っている		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	●個々の性格や介護度に合わせ、できることは一緒に行うことで共同生活感が生まれている。		
21		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	●ご家族にもご理解していただき、面会やイベント、通院などの際には現在の生活状況などを報告し、ご家族からは入所者の嗜好物の差し入れをいただくなど生活状況を共有している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	●このコロナ禍では外出もままならなかったが、趣味や嗜好品などを通じて心地よく過ごしている	以前は、出入りが自由だったため、毎日訪れる家族もいたが、現在は1階の相談室で週2回15分、親族のみの面会となっている。今は、利用者が昔やっていたことを聞いて一緒に取り組んだり、仲の良い利用者同士を隣同士の席にする等、本人が安心して心地よく過ごせるよう、工夫している。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	●各フロアとも共同生活者との認識のもと、生活していただいている		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	●104歳をはじめ90歳以上が13人おられ、此処でのお看取りを要望するご家族も多く、契約満了や他施設への転出などは少ない。転出後も近況等の報告相談も継続しております		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	●入所前から従来の生活内容や嗜好品等聞き取り本人本位で対応している	職員はホームの中の日常会話から、利用者の不安な事、困っていることの把握に努め、職員間で共有している。言葉にできない方には、利用者の表情や仕草から察知して、一人ひとりの思いや意向の実現に取り組んでいる。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	●入所前の見学時点から関係構築に努め、信頼関係を構築している		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	●バイタルなどルーティンから突発的なことまで気配りを徹底している		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	●ここにあった計画を策定し、ご家族にも共有してもらっている	ケアプラン作成時に、ケアマネージャーから家族に電話を入れて意見や要望を聞き取り、担当者会議やモニタリングの中で職員間で検討し、利用者本位の介護計画を6ヶ月毎に作成している。職員から多くのアイデアが出され、個別の対応に繋げている。また、入退院等、利用者の状態に変化があった時には、家族や主治医と話し合い、その都度見直しを行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	●行っている		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	●この施設は自宅での生活をサポートしていますので、利用者本位で突発的なことにも対応している。報告連絡相談を徹底しています。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	●地域密着についてはできていません。今後の課題として社会福祉法人いわき福祉会の会議イベントを見学させていただいております。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	●できております	契約時に利用者や家族の希望を優先して主治医を決めている。母体医療機関や隣の診療所との密な連携で安心の医療体制が整っている。夜間や緊急時には、同法人の総合病院の病棟に直接電話で相談する事が可能である。また、入居以前からの馴染みのかかりつけ医受診の希望があれば、医療情報の提供に努め、家族が同行受診できるよう支援している。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	●診療所を含め4名の看護師とMCSIによる情報交換を適宜行っており、適切な受診看護ができています。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	●適宜適正に行っています		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	●適宜適正に行っています	契約時に、重要事項説明書を基に重度化や終末期に向けたホームの方針について説明し、承諾を得ている。利用者の重度化が進むと、「人生会議」を開いて家族と密に話し合い、利用者や家族の希望を見極めながら、意向に沿った支援に向けて環境整備に努め、看取り支援に取り組んでいる。協力医による看取りの研修を受講し、マニュアルを見直して、知識の定着を図っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	●初期対応や訓練を最近はできていません。 9月29日に心肺蘇生の研修が予定されています		
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	●一校消防団と連携しており入所者全員参加で年1回避難訓練を行っている	避難訓練は、日中、夜間を想定して年2回実施している。夜間想定での訓練では、2階、3階、4階の利用者を速やかに一時避難場所に誘導する方法を確認している。また、非常災害時における非常食については、食事の委託業者による供給体制が整備されている。	ホームが2階、3階、4階に位置し、夜間はフロアーに職員が1名であることから、ホーム独自の夜間想定での訓練を繰り返し行い、避難誘導の方法を身につけることを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	●完全ではないがその指導の下運営している	職員会議や申し送りの中で、利用者の人権を守る介護の在り方を、職員間で話し合い、利用者のプライドや羞恥心に配慮した声掛けや対応を心掛け、利用者一人ひとりが「楽しい」と思える事を考えて実現に向けて取り組んでいる。また、個人情報の取り扱いや職員の守秘義務については、管理者が職員に説明し、情報漏洩防止の徹底に取り組んでいる。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	●会話や観察により石や行動の変化に注意しています		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	●時折情性で職員スケジュールに押されがちだが、職員間の相互牽制で修正できている。そういう場合は上司への報告も行われている		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	●理美容サービスの利用も含め支援している		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	●個々の希望に添えるよう手配している。 また、一緒に準備等出来る入所者さんにはお願いしている	委託業者が厨房で作る食事を提供し、利用者の残存能力に合わせて、一緒に盛り付け等を行っている。行事の際は、手作りの料理やおやつを提供する等、いつもと違う食事を楽しめるよう支援している。また、月1回の検食会議に各階担当が出席し、要望などを伝えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	●個々に対応しています		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	●個々に対応している。 定期的に歯科医による口腔ケアを行っている		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	●個々に合わせた支援を行っている	職員は、出来るだけオムツや紙パンツを使わないように心掛け、利用者一人ひとりに合った声掛けや誘導を行い、トイレでの排泄支援に取り組んでいる。トイレの位置が分かるように大きく掲示したり、居室にポータブルトイレを設置する等、極力失禁のないように工夫して取り組んでいる。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	●個々に応じて対応している		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	●入浴は原則毎日で時間帯も一日の流れでスケジュール化している。 しかしながら、個々の都合で変更等は適宜対応している	利用者の希望や体調に合わせて週2回の入浴を基本としている。入浴剤を使用したり、お気に入りのシャンプーを使う等、入浴を楽しめるよう支援している。入浴を拒む利用者には、時間を置いたり、職員が交代で、「地元の温泉入れるから入ろう」等と、声掛けを工夫する等して臨機応変に対応している。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	●個々に対応している		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	●個々に管理し支援している 職員への勉強会なども協力病院の薬局長にお願いし実施している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	●個々に対応し行っている		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	●コロナ渦では自粛していたが、最近が散歩や家族との外出など行っている。 秋口のレクレーションも計画中	コロナ対策以前は、初詣やドライブ、外食等に出かけ、家族と一緒に普段は行けないような所にも出かけ、利用者の気分転換を図っていたが、現在は自粛している。新型コロナ「5類」移行に伴い、外出の支援を状況を判断しながら行えるように検討している。現在は、人混みを避け、マスクをして手指消毒の徹底を行いながら、少人数ずつ、時々散歩に出かけている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	●個々に応じて対応している		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	●個々に応じて対応している		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	●築20年以上を経過しているが、スタッフの工夫により都度対応している	9階建てビルの2階3階4階部分にある3ユニットのホームは、窓から金比羅池周辺を歩いている人の姿や渡り鳥を見ることができる、明るく開放的な共用空間である。出来るだけ、利用者と制作した作品を季節毎に入れ替えて、目にすることで気持ち良い環境を整え、利用者が居心地よく過ごせるよう工夫している。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	●毎日、デイルームで過ごすことが基本ですが個々の体力や体調に合わせて居室に戻ったり、個々に対応している。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	●本人の希望に沿った配慮をしている	入居前に利用者や家族と話し合い、利用者が今まで使用していた品物を持ち込んでもらい、馴染みの中で生活することで、安心できるよう配慮している。居室の掃除は、利用者と一緒に出来る範囲で毎日行うようにして、清潔で気持ちよく過ごせる明るい雰囲気のある居室である。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	●個々に合わせて対応している		